

映画

遙かな町へ

倉吉ノスタルジー

市とJA鳥取中央が差し入れ

倉吉の旬 味わって

撮影チームに梨とスイカ

倉吉市内でロケが続く映画『遙かな町へ』（錦織良成監督）の撮影チームに英気を養ってもらおうと、市とJA鳥取中央が5日、旬

を迎えた倉吉産の梨とスイカを差し入れた。俳優陣は早速、がぶり。甘くみずみずしい地元の味覚に頬を緩めながら、作品の成功を誓った。

広田一恭市長と上本武組合長が同市魚町の撮影現場を訪問し、出荷が最盛期を迎えている二十世紀梨と新甘泉のセットと、抑制極実スイカ1玉を錦織監督に手渡した。広田市長が「今がピークの特産品を味わい、素晴らしい作品をつくって。市民も応援している」と激励。錦織監督は「市民・県民に協力いただき、大変うれしい」と感謝した。その場で梨が振る舞われ、主人公・博史役の及川桃

倉吉産の梨をおいしそうに頬張る（右から）滝藤さん、及川さん、錦織監督、戸田さんら＝5日、倉吉市魚町

映画『遙かな町へ』日本海新聞（2025.9.6_25面掲載）

利さん（14）や、博史の両親を演じる戸田菜穂さん（51）、滝藤賢一さん（48）らは、梨を頬張りながら「甘い、甘い」「ジュシーだな」と談笑しながら味わった。

自宅に贈るほどの梨好きという滝藤さんは「毎日食べている。撮影の励みになります」と笑顔で話した。

（井田慎一）